



(22) 携帯「株取引」ユーザー、急上昇

野村総研(上海)咨询有限公司

◇アクセス200万回

2006年から中国株式市場は(1)人民元の持続的な上昇(2)中国の法人税見直しによる減税効果(3)香港上場の優良H株企業が中国本土のA株市場へ回帰 - など好材料がそろった。長期間低迷しつづけたどん底から驚異的なスピードで急騰し、07年1月末まで上海および深セン証券取引所で口座開設した個人投資家数が合計8000万人(中国証券監督管理委員会=CSRC=の統計データより)となった(全人口の約6%を占める)。

熱狂的なブームの中で、「いつでも、どこでも株売買ができる」という魅力的なメリットを持っている携帯電話上の株取引が、大都会の個人投資家の間で急速に広がっている。毎日チャイナモバイル上海が配信している証券類情報サービスにアクセスするユーザー数は200万回となり、06年同期比より150%増になった。

◇「携帯株式市場」登場

07年1月29日、CSRCが主宰する鑑定に合格した中国初の「手機股市(携帯電話株式市場)」が広東省深セン市で開通した。「手機股市」は中国建設銀行股(にんべんに分)深セン有限公司、中国建銀投資証券有限責任公司共同の近代的金融サービス商品で建設銀行の「WAP携帯電話バンキング」のコンテンツを拡大したもの。まず深セン市で提供する。

「手機股市」は携帯電話のWAP機能を利用し、口座の問い合わせや振り替え、送金、納付、支払い、銀行証券会社間の振り替えなど多くの日常的な資産管理操作ができる。投資家は携帯電話を使って、いつでもどこでも株式市場や個別株式の相場、情報を検索でき、携帯電話を使っての注文も、事前に証券営業所で口座開設の手続きをするだけで可能となる。

「同花順」携帯電話株取引ソフトウェア



(出典:「杭州市核新軟件技術有限公司」のウェブサイトから)

◇リアルタイム+安全+便利

携帯電話上の株取引というコンテンツサービスは03年から中国で既にスタートした。当時当該サービスを利用するには(1)ごく少ないGPRS/CDMAの携帯端末しかない(2)ネット接続スピードが非常に遅い(3)キャリア・銀行・証券会社・コンテンツ開発者の間で合理的なビジネスモデルが構築されていない(4)株式市場の長期間低迷 - などの理由で、大規模的な展開には至れなかった。

ますます改革・開放する中国金融市場において今後いろいろな新しい金融商品が出、市場自体もさらにグローバル化するに違いない。それに伴い、個人投資家が持っている資産管理の意識がさらに高まり、リアルタイム+安全+便利なコンテンツサービスはモバイルコンテンツの一種としてヒットしそうだ。(野村総研(上海)諮詢有限公司コンサルタント 許文/総経理 中島久雄)